

# 西原の方言 ①

## — 棚原編 —

町史編集室では、新

たに『西原町史』第九巻・資料編八「西原の教育・人物・言語」の編集作業に入っています。そのなかの「言語」については現在、町内旧集落の方言調査を行っています。

方言調査は、沖縄言語研究センター（琉球大学内）の調査票にもとづいて、約1000の単語をひとつひとつ聞いて記録していきます。

棚原では、伊波ウトさん、比嘉茂子さん、比嘉キヨ子さんに棚原クトゥバを教えてくださいました。

「棚原クトゥバはジコーウムサンドー（とつてもおもしろいよ）、ニアギ三サギ（二上げ三下げ）といってね、言葉の調子が二音、三音）上がったり下がったり。どこにいても話すことばをきいたら棚原の人はすぐわかりよった。」と話すウトさん。なんでも棚原クトゥバは、大里村字大城や与那城村字屋慶名、中頭郡嘉手納町字野国の言葉に似て

いるとか。

「学校でもいろんな部落からくるでしょ。棚原の人は『タナバラ、タナバラ、イッターマーカイガー』といって棚原クトゥバをまねされてからかわれたけど、負けなかつたよね。」と茂子さんとキヨ子さんもなつかしそう。ちなみに戦前の学校とは現・西原中学校の敷地にあつて、ウトさん・茂子さんの通つていたときは西原尋常高等小学校、キヨ子さんのときは西原国民学校（昭和十六年校名変更）の名称でした。

ウトさん・茂子さんの話しのとおり、棚原クトゥバは聞けば聞くほどおもしろい。

男の若者・女の若者についても、いろんなことばが使われていたようです。たとえば男の若者の総称はニーシェーターですが、長男にはアフィーで、長女はアバー、二女からはアバークワーと呼びます。

また、既婚の女性にはアン

グワー、未婚者はアバークワーとなるようです。さらに既婚者は、長男嫁がアングワー次男嫁にはバーチー、三男以下の嫁にはバーチーグワーと呼び分けていたというからびっくり。

このごろでは生活のなかで方言を使わなくなってきているため、調査の中で「これはなんといいますか？」と尋ねても「んーなんだつかねー」となかなかでてこない場合もあります。みなさん一生懸命思いだしてくださいませ。

そのとき聞く方も聞かれる方も「あー、やっぱり方言は残しておかないとね。」とお互いに再確認させられるのです。

「棚原クトゥバも今ではやわらかくなつたよ。」とウトさんがいうように、方言は失われつつもあり、またシマ社会という枠がなくなった現在では、他地域のコトバと入り交じって変化しているのでしょう。

町民のみなさん、次はあなたのところ調査にうかがうかもしれません。そのときはユタシクウニゲーサピラ。